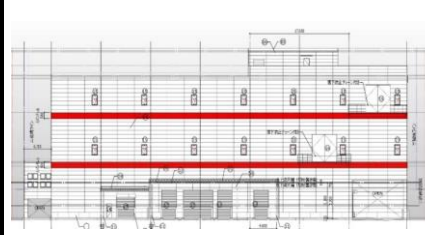


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ミヅホ工業株式会社 南敷地建替工事	階数	地上4F	
建設地	愛知県名古屋市南区豊四丁目1901番,1905番,1906番,1907番,1908番,1909番,1910番	構造	S造	
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	30 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2025年6月25日	
敷地面積	2,244 m ²	作成者		
建築面積	1,079 m ²	確認日	2025年6月25日	
延床面積	3,033 m ²	確認者		



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.0 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境品質 Q 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 100% 88% 88% 88% 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2 機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3 建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1 地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
節水機器の採用やLED照明の採用、燃焼機器の不使用などにより、環境に配慮している。また植栽の計画により、良好な景観を形成している。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外	更新必要間隔の長い内装材を使用している。また階高が4.0m以上あることで、ゆとりのある空間づくりを可能にしている。	植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEI=0.75である。	節水機器の採用、LGS+石膏ボードにより躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	燃焼機器を設置していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

ミツホ工業株式会社 南敷地建替工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.171428571	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017142857	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.085714286	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	1.0	0.0125	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。